

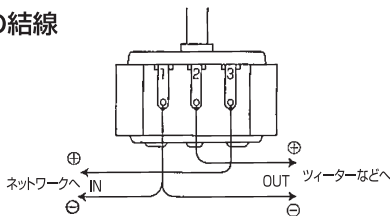


このたびはフォステクス製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。

■高信頼性アッテネーターR80B

ツイーターのレベルを連続可変で調整するための高信頼性設計の8Ω定抵抗形アッテネーターです。

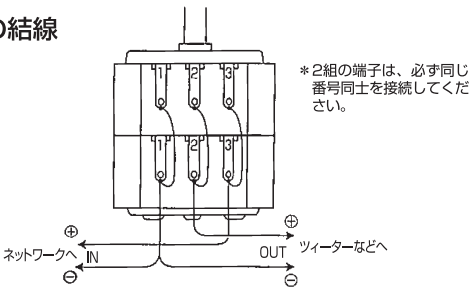
●R80Bの結線



■高耐入力・高信頼性アッテネーターR82B

R82Bは大型の巻線を2組連装した、高耐入力・高信頼性の定抵抗形アッテネーターです。耐入力が大きく、低ノイズで安定した動作が得られるので、大型のHiFiスピーカーシステムやハイパワーなPA用スピーカーシステムの中・高音レベル調整用に好適です。R82Bは、2組の巻線の片側だけを使用すると16Ωアッテネーターとして使用できますので、インピーダンス16Ωのホーンドライバやツイーターのレベル調整用に利用できます(ただし、巻線の片側だけで使用する場合は、耐入力が1/2に減少しますので十分ご注意ください)。

●R82Bの結線



■R80B/R82B使用上のご注意

本製品はツイーター(高音域)などの音量を減衰させることでバランスを調整する製品であり、スピーカー全帯域の音量を一括で調整するボリュームとしてはご使用になれません。コンデンサー、コイル等のネットワーク回路で低音域(500Hz以下)をカットした信号でご使用ください。フルレンジ(全周波数帯域)の信号を入力されますと、発熱、発火の恐れがありますので絶対にご使用にならないでください。

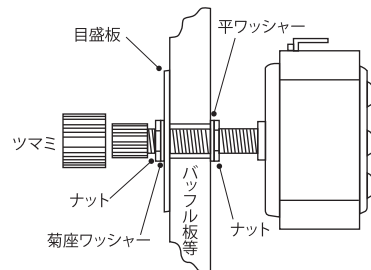
●R80B・R82Bの取付方法

最大27mm程度までの厚板に直接取り付け可能なロングシャフトタイプです。

- (1) 取り付ける板にφ10mmの穴をあけます。
- (2) 取り付ける板の板厚と見合せて、シャフトの先端が板の面からあまり飛び出さぬ程度に位置に、取付用ナット1個をねじ込み、平ワッシャー1枚をその上に挿入します。
- (3) 板の穴にシャフトを通し、目盛板の裏紙をはがしてシャフトにはめ込み、板の表面に貼付けます。
- (4) 目盛板表面の保護被膜をはがします。
- (5) シャフトに菊座ワッシャーと取付ナットをはめ込み、目盛板の上から締め付けて固定します。
- (6) アッテネーター軸を左にいっぱい回しておき、ツマミの白線が目盛板のMINの文字の方向を指すように、アッテネーター軸の頭にはめ込みます。

■規格

	R80B	R82B
インピーダンス	8Ω	8Ω
減衰量	0~40dB以上	0~40dB以上
許容入力(ネットワーク使用時)	100W (Mus.)	200W (Mus.)
シャフト有効長	30mm	30mm
外形寸法	50×50×71mm	50×50×89mm
質量	0.1kg	0.14kg
付属品	ツマミ 目盛板 取付用ナット×2 平ワッシャー×1 菊座ワッシャー×1	ツマミ 目盛板 取付用ナット×2 平ワッシャー×1 菊座ワッシャー×1



■低内部抵抗、低歪みなトランス型アッテネーターR100T2

R100T2は1dBステップでレベル調整が可能な、高級トランス型アッテネーターです。大型の単巻トランスと接点抵抗が低く信頼性の高いロータリースイッチを使用し、低い内部抵抗と低歪みな性能を保有させています。内部抵抗が極めて低く、アンプのダンピングファクターを活かしたスピーカー駆動ができ、大型3ウェイ・4ウェイシステムのミッドウーハーやミッドレンジのアッテネーターにも適しています。

●ロータリースイッチと切替スイッチを併用して、0dBから21dBまで正確な1dBステップの調整ができます。

●バッフル板等に取り付ける場合は77W×79Hmmの角穴を加工し木ネジを使ってマウントします(木ネジは付属していません)。

■規格

インピーダンス：8Ω

減衰量：0～21dB(1dBステップ)

許容入力：100W(Mus.)

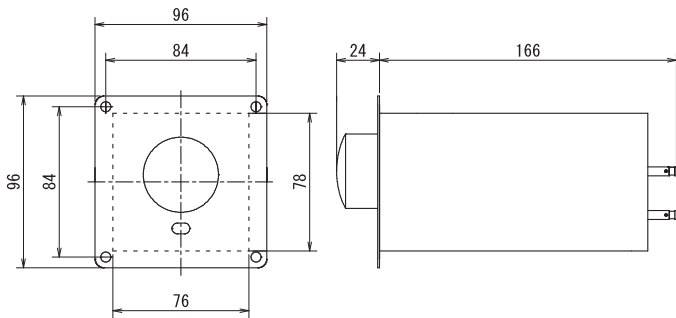
(ネットワーク使用時)

外形寸法：96W×96H×190Dmm

質量：1.17kg

バッフル穴寸法：77W×79Hmm

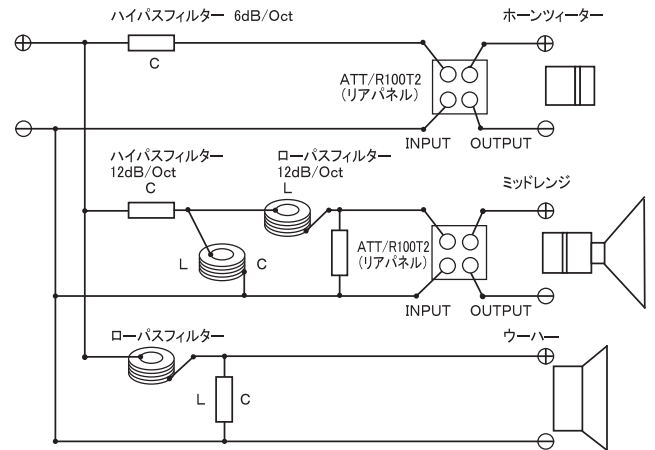
付属品：フット×1、パッキン×1



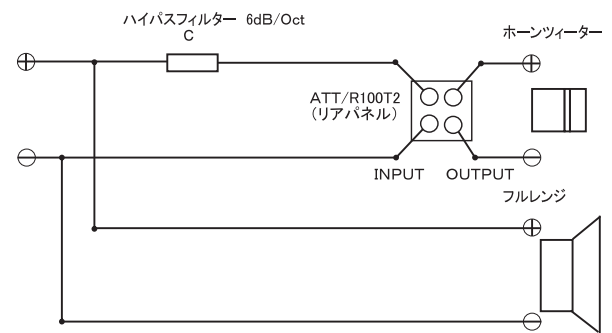
■接続方法

ネットワークとアッテネーター、アッテネーターとミッドレンジやツイーターとの接続例を挙げます。

●Woofer + MID Range + Tweeter 3WAYネットワーク回路図



●Full Range + Horn Tweeter アドオンネットワーク回路図



■R100T2使用上のご注意

本製品はツイーター(高音域)などの音量を減衰させることでバランスを調整する製品であり、スピーカー全帯域の音量を一括で調整するボリュームとしてはご使用になれません。コンデンサー、コイル等のネットワーク回路で低音域(500Hz以下)をカットした信号でご使用ください。フルレンジ(全周波数帯域)の信号を入力されますと、発熱、発火の恐れがありますので絶対にご使用にならないでください。